

3月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ~希望に錨を下ろして~



四旬節にあたって、「うなじ(首の後ろ側)が硬い民」(申命記9:6-29)について書きたいと思います。「うなじの硬さ」とは、「頑なさ」を表しますが、モーセが民を荒野で導いてきた年月を振り返りながら、その民に使っています。彼は民に何度も神の言葉を伝え、彼らのために

四旬節にあたって

イエズス会司祭 山中 大樹

当小教区でミサやゆるしの秘跡を手伝い、金曜夜に信徒養成講座・新約聖書講座を担当しています。山中大樹と申します。2022年にローマ教皇庁立聖書研究所で聖書学博士号取得。2024年4月から日本カトリック神学院(東京カトリック神学研究所)で聖書学などを担当しています。

頑なな民

神にとりなしました。民は神に背いてきました。モーセがこの世から去ろうとする時に、これらのことを民に思い起こさせ、神に忠実であるようにと改めて語ります。このように頑なさは決して旧約聖書の中だけのものではなく、私たちキリスト者の中でも、多くの人の中でも繰り返されています。戦争、環境破壊、高慢、悪口、妬み。イエス・キリストが示した、人としての愛し方、神の子としての謙り方から、私たちは遠くにい続けているようです。私たちは皆「うなじが硬い民」です。

教会生活に焦点を当てても、例えば「自分の」祈り方や歌い方が強く、共同体の祈りであるミサが揺らいでいるように感じる場合があります。「自分の」ルールにこだわるあまり、(さまざま)な事情はあるでしょうが)ゆるしの秘跡から何年も遠ざかったり、数日おきだったり、いずれも教会が想定していな

いこととして見ることがあります。サブスクで好みの音楽や動画を選ぶように、「自分に」耳心地のいいことを選んで聞き、生きる風潮が、教会内にも見えることがあります。

うなじを柔らかくして

ともに

季節柄、また誌面の都合上、ゆるしの秘跡に絞って簡略的にですが取り上げましょう。詳細は『カトリック教会のカテキズム』422-484などをお読みください。まず、洗礼によってあらゆる罪は赦されます。ゆるしの秘跡は、洗礼後に犯した神との交わりを断つ大罪を心から悲しみ、その罪を忌み嫌い、再び犯さない決心を伴う痛悔の心をもって告白し、神から赦しを頂くことです。神以外のものに愛着を起こさせる日常の罪(小罪)の告白は厳密には必要とされませんが、霊的生活を深めるために勧められています。小罪に対してはゆるしの秘跡以外でも神は赦しを与えてくださいます。ゆるしの秘跡から遠ざかることは私たちが弱い存在だと十

分に理解していないことを表すのかもしれないし、あまりに頻繁すぎるケースはゆるしの秘跡を「聖体拝領の前提条件とだけ見ていた」、霊的指導の場や習慣にしてしまっていたりするのかもしれない。また、神は私たちがこだわる罪のリストを握り締め、「告白せよ」と迫るような方ではなく、ご自身の愛を私たちが感じ、そこに生きるよう願われていく方だと気づくことが大事だと思われま。ゆるしの秘跡やミサをはじめキリスト者の生は、神へと、人々と世界の必要へと、もっと私たち自身を開いていくものだと思います。「自分」とどまらず、うなじを柔らかくし、心と目と耳を神と人々へと開いて、ともに歩みたいと思います。

教会報 MAGIS 3月号

- † (希望は欺かない) 2025年聖年を振り返って P2~3
- † 新年祝賀会と教会行事 P4
- † (講話) ホアン・マシア神父 ペドロ・アルベ神父を支えたキリストのみ心への信頼 P5
- † (教会活動連絡会便り) ~典礼連絡会~ P6
- † Family of St.Ignatius ~インドネシア共同体から~ P7

共同祈願

† 3月22日

「麴町聖テレジア教会献堂90周年」の祈り

今日は、聖イグナチオ教会の前身である聖テレジア教会が献堂されて90年目の記念日です。リジューの聖テレジアのように目立つことなく、神さまにだけ知られるように、私たちが行うこと一つひとつに愛を込めることができますように。

† 四旬節中の祈り

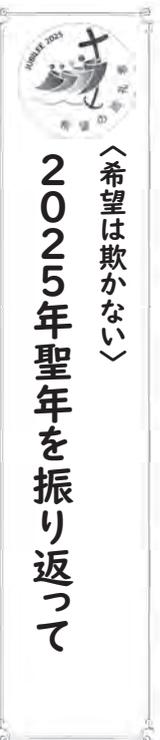
(3月29日まで)

教会は、復活祭に洗礼を受ける志願者と四旬節を歩みます。祈りと断食によって心を整え、ともに復活の喜びにあずかれますように。また、キリストの平和が世界で実現できますように。

† 聖木曜日

(4月2日)

イエスさまが弟子たちの足をお洗いになったように、私たちが互いに尊重し、関わり合うことができますように。そして、受難を前に愛の形見として残してくださったご聖体の恵みを感謝していただけますように。



「主の公現」の祭日に、教皇レオ十四世がバチカンで「聖なる扉」を閉じ、「2025年聖年」は幕を閉じました。当教会でも、「主の公現」ミサで、聖年が締めくくられました。聖年を振り返り、期間中の活動を紹介します。

聖年閉幕ミサ
（「主の公現」の祭日）

1月4日(日)10時のミサ
説教で司式のサトル・ニコ・オチョア神父は「今日の福音箇所はたとえ話みたいなもので、大人の目で読んで受け入れると、いろいろ学ぶことができます。」

まず、イエス・キリストは当時知られていなかった東方の人たちのために生まれた、その人たちがヘロデ王のところへ行って真っ先にその居場所を探し求めているのに、王は探さない。さらに祭司や律法学者たちが5kmしか離れていないベツレヘムだと伝えたのに「見つかったら知らせしてくれ」と命令します。これは非常な皮肉です。その後、博士たちは星に導かれ、マリアとイエスを見

つけます。旧約聖書のダビデ王が受けた預言(サムエル下7:12-16)は、イエス・キリスト誕生によって果たされます。今、教会の敷地内に飾ってある馬小屋。その中の博士たちの人種や年齢はさまざまです。

しかし、馬小屋は福音書には書かれていない、教会が作った普遍的な表現です。そして、3人の博士も贈り物は3つですが、どこにも3人とは書かれていません。

1 黄金・王の印である王冠の材料

2 乳香・何かを求め祈る対象、すなわち幼な子が神であることを示す

3 没薬・当時の人は鎮痛薬として使っていた人として苦しみに耐えられるように、捧げられた

私たちが博士たちとともに希望の巡礼をしながら、

生きている限りいつも歩み続け、神であり、王であり、人間であるイエス・キリストを探し求めましょう」と「2025年聖年」のしめくりにふさわしいメッセージで語られました。

12時からの英語ミサでも、聖年の閉幕を記念しました。ミャンマーからは聖年のロゴを、ガーナからはベツレヘムの星を、インドからは旅の印であるサンダルを手にした3人の博士が現れ、祭壇に奉納されました。

聖年聖歌交流コンサート

2025年12月4〜9日の6日間、聖歌隊有志で香港を訪れました。聖年と香港司教区設立80周年を記念して開催される「Jubilee Eymnal Exchange Concert」(禧年聖詠交流音楽会)に参加するためです。当教会の7つの聖歌隊か

ら集まった14名とオルガニストの計15名。日頃は別々の時間帯に活動しており、初対面のメンバーも少なくありませんでした。香港から東京大司教区を通じて打診があったものの、規模も費用も見当がつかず、一度は断りかけましたが、「行こうよ」と声が上がリ、聖歌隊としては恐らく初めての外部の、しかも海外のイベントに参加することになりました。

主催者からやっと届いたわずかな情報は「持ち時間12分、自国語で『希望の巡礼者』を歌う、服装はフォーマルウェアまたは民族衣装」という条件でした。そこで「日本の聖歌を届けよう」と考え、次の5曲「主の祈り」「自分を捧げる祈り」「ごらんよ空の鳥」「あめのきさき」「希望の巡礼者」を日本語で歌いました。

直前の政治問題や香港大火もあり、イベント自体の中止も危惧しながらの渡航でした。参加者は東アジアを中心とした7つの司教区からで、我々も「東京教区」という位置づけでした。前日のパーティーでは、お互

いに必ずしも英語すら堪能ではない中、各国のチームと「Where are you from?」「See you tomorrow!」とわずかな言葉で交流を深めました。

コンサートの出番は2番目、100名を超える香港隊の大合唱の後に、「主の教えを守り」の先唱から「主の祈り」で始めました。「あのきさきさき」で、我らが指揮者が客席に振り返った途端に会場中に湧きあがった「Ave Ave」の歌声、今でもあの歌声を思い出すだけで目頭が熱くなります。教会には歌があり、一緒に歌うことの喜びを味わいました。この旅で、派遣の喜びと恵みを皆が実感しました。今後も派遣されることを忘れ

ず、いとわず。そして、派遣される方をお迎えし、もてなすことも私たちのミッションだと、胸に刻みたいと思います。

聖年とみこば

聖イグナチオ教会オンライン講座「聖年とみこば」が2025年聖年を通じて行われ、月一回のペースでYouTube配信されました。司祭やシスターが、自分が大切にしている聖書の言葉を紹介し、人生の希望となるみこばを分かち合いました。



▲ YouTube 配信

第1回 行って、あなたも同じようにしなさい

高祖敏神父 「善いサマリヤ人」のイエス・キリストの言葉(ルカ10:37)から、自分中心から進んで出ていき、自分を差し出して助け隣人となる人生の基本姿勢を学び、今も学び続けています。

第2回

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのものに来なさい。休ませてあげよう(マタイ11:28) ハビエル・ガラルダ神父 イエスの示す解決策は、「わたしの轡を負い」(マタイ11:29)なさい、つまり、愛し合う生き方を学ぶことです。キリストの轡(教え)には意味があり、キリストがともにいてくださるので、その轡は負いやすいのです。

第3回

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである(マタイ18:20) ボニー・ジエームス神父 教会は①「母なる教会」、②「家族としての教会」、③「野戦病院である教会」、④「教会は救いの船」、⑤「キリストの体としての教会」です。共同体につながり、安心感と希望を頼りに歩んでいきます。

第4回

敵を愛しなさい グエン・タン・ニャー神父

「敵を愛し」(ルカ6:27) なさいというイエスの教えを実践することが、平和と希望への道であり、福音の核心です。イエスが求めるものは難しいが不可能ではなく、この愛に倣う者には大きな報いがあります。

第5回

信仰の導き手であり、その完成者であるイエスに、私たちは目を注ごうではありませんか サトルニノ・オチヨア神父 歩み続ける出エジプト記の民が巡礼の原型であり、私たちの人生は神の国へ向かう旅です。「イエスは私たちの信仰の導き手」(ヘブライ12:2参照)であり、父である神の下に向けて、最後まで歩み続けましょう。

第6回

絶えず祈りなさい(一テサロニケ5:17) 柴田潔神父 祈りが人を支え、心を整え、神との一致へと導きます。絶えず祈り、「わたしと一緒に踏みとどまってくれた」(ルカ22:28)という言葉で、人生の最後に聞きたいです。

第7回

シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くなるように祈った。だから、あなたは立ち直ったから、兄弟たちを力づけてやりなさい シスター品川ヨシ子 「シモン、シモン」で始まるルカ福音書22章31〜32節のみこばが、神に向かう歩みを導いてきました。人は誰でもふるいにかけられますが、イエスはどんな時も信仰がなくならないように祈って下さっています。

第8回

目が見えるようになりたい(マルコ10:51) ハビエル・ガラルダ神父 物事の中にイエスを見て、イエスの目で物事を見ます。そして、イエスが私の目で物事を見ると、「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20)

新年祝賀会

キリストとともに、ひとつになつて

1月11日(日) 11時よりヨセフホールにて、新年祝賀会が行われました。まず、6日(公現の祭日)に閉幕した聖年のテーマソング「希望の巡礼者」を歌い、「ともに歩む教会の祈り」を皆で唱えました。高祖敏明主任司祭と神父様方の挨拶に続き、恒例、樽酒の鏡開きで乾杯！新しい年の始まりをお祝いしました。

高祖敏明主任司祭の挨拶

本日はたくさんの方にお集まりいただき、ありがとうございます。まず、今日こうして皆さまと一緒に新年を祝うことができることを神さまに感謝し、この賀茂鶴(高祖神父の故郷・広島県のお酒)とともにお祝い



したいと思えます。そして、今日のために準備してくださっているお一人おひとりにも感謝したいと思います。

聖年は幕を閉じましたが、希望の巡礼者としての歩みはこれからも続きます。私たちの聖イグナチオ教会もどんだん歩みを進めてまいります。「ともに歩む教会の祈り」にあるように、この教会の近くを通る人、教会に来て祈る人、祭壇を囲んで一緒に主の食卓にあずかる人、その一人ひとりが神さまの祝福を受けて、神さまからもたらされた喜びの福音で心が照らされますように。その照らしが私たちの人生に、毎日の生活に行き渡りますようお願いしたいと思います。



▲聖イグナチオ教会のはっぴを着て、乾杯！

2033年は特別聖年です。イエスが受難し、亡くなり、ご復活し、贖いの業を果たされてから2000年。皆さま、少なくとも7年間は長生きしてください。そして、2036年は麹町教会としての小教区が誕生してから100周年になります。これらを視野に入れながら、この教会のビジョンと司牧計画(パストラルプラン)を策定しようとしています。これは「ともに歩む教会」という言葉の通り、皆で作っていき、希望の巡礼者として一緒に、私たち共同体の将来を示すことができたらと思います。これからもどうぞ、よろしくお願致します。

信徒代表

さんから次年度のテーマ「ひとつになろうキリストのうちにとともに歩む教会へ」 Journeying Together as One to Jesus」が発表され、昨年、香港での聖歌交流コンサートに参加した聖歌隊有志の皆さんから聖歌が披露されました。立食形式でトルティーヤ、ポルボロン、お汁粉やコーヒーをいただきながら、歓談タイムを楽しみ、「ごらんよ空の鳥」を歌って閉会しました。

教会行事

20歳記念ミサ・お祝い会

1月11日(日)18時より主聖堂にて、高祖神父主司式のもと20歳の記念ミサが



行われました。ミサでは、同世代の仲間とともに主聖堂に集い、神父様方から祝福をいただきました。侍者からろうそくの火を灯していただき、イエスさまと会衆の皆さまに見守られていることを実感した時間は、心に深く残っています。久しぶりに小学校の同級生と再会できたことも、神さまの導きを感じる出来事でした。

その後、ヨセフホールでの祝賀会では、教会の皆さまと喜びを分かち合いました。多くの支えと祈りに感謝し、これからも信仰を胸に歩んでいきたいです。来年は次に20歳を迎える方々を祝う側として、この場に集えたらと思います。

ペドロ・アルペ神父を支えた キリストのみ心への信頼

ホアン・マシア神父（イエズス会）

広島で原爆を体験し、イエズス会日本管区長、イエズス会28代総長等を歴任されたペドロ・アルペ神父の列福に向けた運動が続いています。聖イグナチオ教会の活動グループ「アルペ神父の列聖を祈る会」では、アルペ師の生涯や霊性を学び、私たち信徒も言葉と行いによって証しができるよう努めたいとの思いで、アルペ師を知る方による黙想会や講演会を行っています。

今回は、2025年11月1日に行われたホアン・マシア神父の講話を抜粋、編集してご紹介します。
広島悲劇の中で

今日は3つのエピソードを通して、アルペ師の霊性について話したいと思います。一つ目は1959年、私がスペイン・アランフェスにあるイエズス会の修練院にいた時のこと。当時イエズス会日本管区長だったアルペ師がそこ

を訪れ、講話をしてくださいました。

師はまず広島での体験を話されました。広島に原爆が投下された時、師は長束の修練院を野戦病院のようにして被爆者約200人を受け入れ、ほとんどの命を救ったのです。広島での体験を話す時、師はいつも自慢話にならないように配慮していました。この時もそうでした。そして次のように続けられました。

「あの悲劇の中で、なぜ私たちは希望を失わずにいられたのか。自分でも信じられませんが、私たちが力づけてくださるキリストが、そうさせてくださったのです。そうでなければできないはずは



ありません」

話は日本の教会への支援や宣教師の派遣へと及びました。当時、宣教のために「学識に優れた人を日本に派遣しよう」と言われていました。師は強調されました。「日本人が知りたいのは、キリストを信じる人がどう生きているか、です。キリストの心とつながっている実感。これこそが福音宣教の資格です」。更に「キリストと一致していなければ、名門の博士号を得て日本に行っても役には立たない」と強調されました。

私を含め日本宣教を志していた人々はこれを聞き、「自分にその資格があるだろうか」と戸惑いました。

3つのみ言葉

1965年2月、私の日本への派遣が決定しました。その3か月後の5月、アルペ師がイエズス会28代総長に選出され、私は師の就任挨拶の録音を、スペイン・アルカラの哲学院の講堂で仲間と共に聞きました。

アルペ師は「今、心に浮かぶみ言葉」として、次の3つを紹介されました。

✧わたしを離れては、あなたがたは何もできない
(ヨハネ15:5)

✧わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能
(フィリピ4:13)

✧わたしの名のためにどんなに苦しまなくてもはならないかを、わたしは彼に示そう
(使徒言行録9:16)

これはいずれもキリストのみ心への信頼の基本です。まもなく日本へと出発する私には、師からの励ましと同時に戒めの言葉にも聞こえました。「み心への信頼の霊性をもって、日本に行きなさい」と。

キリストの無限の愛

1974年、スペインのロヨラで霊操に関する国際会議が開かれ、アルペ師が基調講演をされました。ちょうどスペインで第三修練をしていた私は、その講演を聞くことができました。

「無限の愛で愛してください。イエスが力づけてくださるから、私たちは何でもできるようになります。イエスの無限の愛を体験して初めて、私たちのような者でも

人を愛せるようになるのです」

「キリストにすべてを委ねましょう。キリストからの使徒的派遣(ミッション)を果たす鍵は、キリストのみ心に對する信頼以外にはありません」

アルペ師はどんな時も希望を失わない人でした。しかし単なる樂觀主義者ではありません。「キリストのみ心への絶対的な信頼」が、師を支えていたのです。こうして話をしていると、改めてアルペ師の言葉が胸に刺さりまします。私は、ここ日本で何ができたでしょうか。

私たちの心にも、キリストのみ心への信頼が育まれるように祈りましょう。

マシア神父プロフィール

1941年スペイン生まれ。専門は倫理・哲学思想史。アルペ神父の影響で日本宣教を志し、1966年に来日。1973年司祭叙階。コミリアス大学教授、上智大学教授を歴任。2000年、故白柳枢機卿に任命され、WCRP(世界宗教者平和会議)に参加。現在は同平和研究所研究員。

教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」で、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、対話を重ねてきました。前号に引き続き、当教会にある連絡会を紹介いたします。

典礼連絡会

典礼連絡会の成り立ち

典礼連絡会は2017年5月に当時の典礼担当神父だった英隆一朗神父のご提案により、「各グループの意見を取り入れながら効率よく伝達・調整」できるようにと発足されました。

発足前までは、各グループの典礼連絡事項などは典礼担当神父より各グループへ伝達いただいておりましたが、典礼担当神父の負担も大きく、タイムラグも発生しておりました。発足当時は参加グループの数もずっと少なかったと記憶しております。

典礼連絡会では、教会が一番大事にしている「みんなで集まり祈る」ことを目的とした典礼を、より良い

祈りの場となるように連絡・調整をしております。もちろん典礼は私どもだけではなく、他の多くの連絡会の方々の準備と協力があり成り立っております。

現在は9年目を迎え、柴田潔神父（典礼担当神父）を中心に14グループの代表と典礼担当評議員で構成されており、2か月に一度の定例会議と臨時会議（聖週間・復活祭・国際ミサ・クリスマスミサなど）にて、典礼の振り返り・今後の典礼の共有確認を行っております。それと同時に、各グループの方々と定期的集まり話し合うことで課題や悩みなども共有しております。

典礼そのものは大きく変わる要素があるものではありませんが、前年度の振り返りの中から少しずつではありますが、深い典礼となるよう話し合っております。

構成グループ：柴田潔神父・聖体奉仕グループ・先唱グループ・第一朗読グループ・第二朗読グループ・聖堂係・侍者会・マルタとマリアの会・聖歌隊・オルガングループ・手話サークル・ザークイ・配信チーム・音響グループ・子どもとともにささげるミサグループ・写真チーム・典礼担当評議員・典礼補佐

各グループの代表交代もあり、今まで大変多くの方々に典礼連絡会に参加していただいております。

コロナを経験して得たもの

少し前の話となりますが、2020年のコロナ発生により典礼も多くの変更を余儀なくされました。

「みんなで集まり祈る」場所、祈りは心の中で唱える・聖歌を歌えない・入堂人数の制限（主聖堂100名）・奉仕者の年齢制限による減少など。また、緊急事態宣言に伴う外出自粛など、日々制限が強くなりミサの回数を減らさざるを得ない時期もありました。そんな中でも典礼連絡会はZoomなどを併用しながら

一度も休まずに続けてまいりました。

当たり前が当たり前でなくなった時期でしたが、得られたものも大変大きく、ミサ配信の確立は顕著なものでした。高齢や病気で教会に来れない方、遠方で来れない方など種々の理由で典礼に参列できなかつた方々が典礼映像を視聴でき、教会とのつながりを実感できるようになりました。

あれから6年近くが経過しましたが、コロナ禍を経験して確立した新しい試みや、コロナ前に戻したいことを典礼毎に話し合いながら努力を続けております。

国際ミサ

日本でもいろいろな場面で国際化が進んでおります。聖イグナチオ教会も毎年のように国際ミサを行い、言葉や文化の違いを越えて、ともに祈る場が増えてきました。典礼連絡会もお手伝いをさせていただき、2025年は「ひとつになるう」をテーマに国際ミサが行われました。

すべての人がともに祈ることができる環境が今以上に

に整い、多くの信徒の主体性を大事にしながら教会全体が一致が加速してまいりますように。

防災訓練

聖イグナチオ教会では防災インストラクターのご指導のもと、「防災チーム」が発足されております。特に典礼中の地震対応に関しては、典礼連絡会のグループが重要な役割を担っております。地震が発生しても「聖堂内は安全である」ことを引き続き周知を行い、会衆が混乱せずに落ち着いて行動できるように訓練を重ねております。

「地震発生中は聖堂内に留まること」を基本としていきます。

今後の典礼連絡会

典礼を通して信仰がより深まり、共同体の交わりがより豊かなものとなりますように。

次世代の多くの国の若者たちへ典礼連絡会の役割を丁寧に関わりながら、ともに教会を作る一助となれるように努力してまいります。



Family of St. Ignatius

～インドネシア共同体から～

私たちインドネシア共同体は、他の外国語共同体と同じように、メンバーの入れ替わりが激しいという現実が常にあります。

その中で気になっているのは、いろいろな理由で教会に来られなくなった方が多くなっていることです。主に仕事の事情によって来られなくなった方々に目を向けたのですが、彼らが信仰を磨き続けるための方法を探すことは、終わりのない探求でもあります。日常の闇や渇きに向き合いながら、慌ただしい生活

の中でも一生懸命に信仰を育てようとしています。とはいえ、時には限界にぶつかってしまうこともあります。

特に、孤独感を生み出す異文化の壁や、言語の難しさなどが、心の荒みの大きな原因となっています。そのような中で、主日のインドネシア語ミサにあずかれた時には、とても大きな喜びを感じ、特別な機会を得た経験となります。

母国語で信仰を分かち合い、共同体で祝う喜びが、どれほどであるかを深く感じます。

信仰に支えられているという経験は、やはり個々を超えていますね。（フィルマンシャー・アントニウス神父）

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

（2月5日開催）

1. 2026年度の年間予定が確定しました。予定表は信徒による封入作業を経て、聖週間頃に郵送でお届けする予定です。
2. 4月5日(復活の主日)の英語ミサは、主聖堂で12:00から、マリア聖堂で17:30から行われます。
3. 地下駐車場の消火剤の交換工事を3月に実施する予定です。

●四旬節黙想会●

日 時：3月20日(金・祝)
10:00～講話・黙想 12:00～ミサ
場 所：主聖堂
テーマ：主よ、お話しください。僕は聞いております。
～イエスとともに歩む教会へ～
指 導：高祖敏明主任司祭

*事前予約不要、YouTube 配信あり
*詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください

●主日ミサでの献金について●

皆さま、いつも教会維持費やミサ中の献金にご協力いただき、ありがとうございます。

2月28日(土)から、主日ミサでの献金の方法を、コロナ禍前の形に戻すことになりました。

ミサで感謝の典礼に移りますと、座席ブロックごとに献金カゴが皆さまの手渡しで回っていきます。献金をカゴにお入れいただき、隣の方へお返しください。

どうぞご協力をお願いいたします。



●お手伝い募集●

- ・2026年度年間予定表の封入作業
日時：3月18日(水) 9:00～12:00
場所：ヨセフホール
*信徒へ8,000通郵送するための封入作業をお手伝いください
- ・シュロの枝切り作業
日時：3月27日(金) 10:00～12:00
場所：ヨセフホール
*受難の主日に使用するシュロの準備作業
*持ち物：エプロン、軍手、花ばさみ
- ・イースターエッグの飾りつけ
日時：4月4日(土) 9:00～12:00
場所：ヨセフホール
*お子様も参加できます
*持ち物：エプロン

●財務報告●

1月25日(日)「世界子ども助け合いの日」の献金1,472,870円はローマ教皇庁に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

3月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

| | |
|-------------------------|---|
| 1 (日) 四旬節第2主日 | 献血 (日本赤十字社) 受付 10:00~10:30/12:00~16:30 ヨセフホール |
| 4 (水) | イエズス会社会司牧センター 2026年新春セミナー 18:30 ヨセフホール テーマ: 今、平和の道を歩むには ~最近の世界情勢~ 講師: 中野晃一氏 (政治学者、上智大学国際教養学部教授) |
| 6 (金) 初金曜日 | 十字架の道行 18:45 マリア聖堂 (聖週間前までの毎金曜日) 性虐待被害者のための祈りと償いの日 |
| 8 (日) 四旬節第3主日 | 子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30 ~ 日曜サロン・ミニオリエンテーション (受け皿) 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 「感謝の典礼②とりなしの祈り」 講師: 増田健氏 |
| 11 (水) | 傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 |
| 13 (金) | 十字架の道行 18:45 マリア聖堂 |
| 15 (日) 四旬節第4主日 | |
| 18 (水) | クリプタに安置され3月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 |
| 19 (木) 聖ヨセフの祭日 | |
| 20 (金・祝) | 四旬節黙想会 10:00 主聖堂 十字架の道行 18:45 マリア聖堂 |
| 21 (土) | 新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール |
| 22 (日) 四旬節第5主日 | 麴町聖テレジア教会献堂記念日 (90周年) 日曜サロン・ミニオリエンテーション (受け皿) 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール |
| 27 (金) | 十字架の道行 18:45 マリア聖堂 |
| 29 (日) 受難の主日 (枝の主日・聖週間) | |

マジス 4月号は4月5日(日)発行予定です。

主任司祭: 高祖 敏明
 助任司祭: ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭: ジェリー・クスマノ
 ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 神学生: アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレス
 シスター: マルセラ・ロサス
 フロール・フロレセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂
7:00/12:00/18:00
 【土、日曜日】主聖堂
土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)
 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
 12:00 (英語) / 13:30 (スペイン語) /
 15:00 (ベトナム語)
 【土曜日】マリア聖堂
17:30 (英語)
 【月の第1日曜日】マリア聖堂
12:30 (ポルトガル語) / 16:00 (ポーランド語)
 【月の第2・4日曜日】マリア聖堂
16:30 (インドネシア語) 『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083
 千代田区麴町 6 - 5 - 1
 TEL 03 - 3263 - 4584
 FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)
 リンクツリー (linktree) とは多
 数のリンクをまとめて表示して
 いるツールのことです。このQR
 コードを読み取ると教会ホーム
 ページ、教会ガイド、Twitter、
 Facebook、Instagram、
 YouTubeへアクセスできます。